

阿波まちかど

<http://toku-sikai.sakura.ne.jp/arc/>

建築士 3月号附録 昭和28年 2月23日第3種郵便物認可 毎月1回発行 発行/社団法人 徳島県建築士会 TEL088-653-7570 FAX088-624-1710

●とびっくす●

私をスノボに連れてって(*^3^*)in ハチ北

徳島支部 G 藤

無謀にもスノーボードに初挑戦!した間もなく REAL40になる G 藤がスキーツアーの様子をご報告させていただきます。

2月11、12日、男性4名、女性3名の美男美女!?が集まり、ハチ北ゲレンデにアタックいたしました。参加者のうち、私 G 藤と女性 A さんは、スノーボード初挑戦!のため、心優しき S 口氏のスノーボードスクールに入隊!まずは、スノボのブーツの紐を結ぶところから四苦八苦(;>_<)。そこで早くもかなりの体力を消耗することに不安を覚えながらも、全員でいざゲレンデへ!他の参戦者の方は、それぞれスノボ、スキーへと雪原へ消えていく中、私達初心者2名は、ゲレンデの片隅で S 口隊長からまずは基本をご指導頂きました。ゲレンデを颯爽と滑るボーダー達を夢見て練習を重ねるも、これが意外と体力を使うし、バランスを取るのも難しい(=_=;)しかし、隊長の「昼からリフト乗って上にいくよー」の指令で、不安を覚えながらもいざゲレンデへ!滑るというよりも、転げ落ちながら!何とかゲレンデを下り、その後何度かアタック!そのゲレンデを滑る!様子は、参戦者の某ボーダーさんに「何度もちょっとした交通事故に遭ってるくらい脳に衝撃うけるとるんちゃうん?」と評価を頂きました(▽|_|)

そして、夜は旅館で他県支部のスキーツアー参加者の方と、一緒に夕食と懇親会を行い、他県の支部の活動状況などについて、ざっくばらんに話することも出来ましたし、美味しい山陰産のカニもお腹いっぱい頂きました(^_^)

そして2日目、身体の疲労も関係なく時間まで目一杯スキー&スノボを全員で満喫し、ハチ北温泉でリフレッシュして、帰路へつきました。(M ナベ氏の天性の運の強さで、レンタカーの返却時間も結果オーライでした)(^_^;)

なかなか思うようには滑れなかったスノボですが、S 口隊長のご指導のおかげで2日目には少しは滑れるようになり、そうなるともっと楽しく滑れるようになりたい!と、思った初スキーツアーでした(^_^)

是非皆様も来年は参加しましょう!カニが美味しい、いやゲレンデは爽快ですよ(-^▽^-)



ひょうたん島八景 その6

徳島支部 矢部 洋二郎

さらに、「県庁前にヨットのある」という場所の特徴を加えて、

[県庁前にヨットのある“ケンチョピア”

～イルミネーションのともる夕暮れ時～]

という八景式としたのです。

この行程を他の八景候補にも適用させ、次の「八景+1」を得ました。

[日常的に利用される“助任川河岸緑地”

～のどかなウォーキング～]

[都市的でおしゃれな“新町川水際公園”

～明るいイベント会場～]

[都市的で普段着の“藍場浜公園”

～歴史と文化をはぐくむ水辺～]

[歴史的な物語のある“福島川河畔緑地”

～藩政の松と関寛斎、散策の堤～]

[最高の眉山が眺望できる“三ツ頭(がしら)の渡し跡”

～面舵(おもかじ)とともに～]

[城下の歴史を思う“三ツ合橋周辺”

～日本一?の橋～]

[近代化遺産のある“中洲市場周辺”

～三河家・鉄橋とレンガ貼りの橋脚～]

[城跡の歴史を感じる“徳島城堀川端”

～桜の舞う石垣～]

やはり、[景の後ろ部分]に注目です。

そして、各々の八景式を読み上げた時、情景がありありと思ひ浮かびますか？

八景式の「後ろ2文字」に相当する「各景の楽しみ方や演出条件」について、話を飛躍させずに伝えたいと思ってきましたが、結局、前号の表を何度も読んでもらうのが一番ということかもしれない。

なお、事務局から、(乗船会や八景候補お探し隊での人気投票では対象としていなかったのですが)、ひょうたん島の「水」についての景として、永く、深く市民になじみのある徳島城堀川端の景観を「+1景」として、追加したいと提案しました。そして、[景の後ろ部分]は「桜の舞う石垣」の頃が、お堀端に、最もふさわしいと感じました。

都市的で普段着の“藍場浜公園”

さて、ひょうたん島八景+1は、平成18年からの事業目的である「ひょうたん島の景観特性を抽出すること」を達成できたのだろうか？ 藍場浜公園を題材にして、「歴史と文化をはぐくむ水辺」について振り返ってみます。

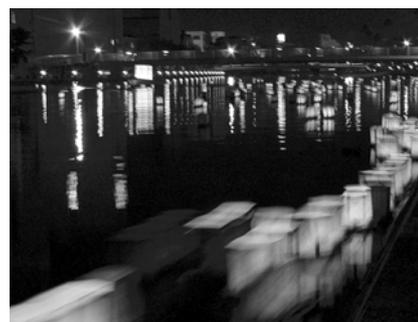
現在の藍場浜公園は川沿いの親水公園で、広い催し物会場があり、阿波踊りでは最長の栈敷が設けられ、多くの有名連の練習場にもなっています。川面が近いプロムナードではベンチに腰掛けている人たち、昼寝する人、散策する人などをよく見かけます。桜並木はひょうたん島全周の中で最も長く、美しい。



景観を特徴づける要素は、郷土文化会館と8月16日の灯籠流しとみました。場所を代表している郷土文化会館のデザイン



は、左の写真のように、藍蔵の建ち並ぶ浜であったという場所の歴史と文化を踏まえたデザインであり、建築デザインの流行を超越した価値があると思います。



もう一つは、昭和39年から徳島市仏教会により毎年8月16日夕方からおこなわれている「精霊供養灯籠流し」の会場であることです。お盆に迎えた先祖や新仏の霊を送る灯籠流し

とされていますが、7月4日の空襲で亡くなられた多くの徳島の人々の葬送の時でもあり、それは同時に、徳島の繁栄を象徴していた藍蔵群葬送の儀式ともいえるでしょう。藍の徳島が焼け野が原となり、繁栄と栄光の歴史が焼け去った場所なのです。そして、戦後の徳島が再出発した原点の地、という特性があること。

八景選定は、このようなことを思い起こさせてくれる作業でした。(つづく)

辻の町並み調査に参加して

三好支部 橋本 美保

昨年4月、三好市教育委員会を中心として、三好市辻町地区の町並み調査を行うことになりました。

この辻町地区は、当時祖谷からの交通の要衝であり、葉たばこの加工（刻みたばこ）で繁栄した伝統的な町並みが残されています。しかし、この辻町地区も過疎化や高齢化による後継者不足などで、次々と空家が増えてきています。

そこで、今現在残されている建物や町並みの歴史を記録し残していこう、今後の町の活性化などに活かせる資料を作っていこうと、この調査は始まりました。

参加者には、文化財関係の学識経験者の方をはじめ、地元の文化財保護や研究に携わっている方たち、そしてとくしま文化財マイスターの三好市メンバーの私たちがです。

この調査は、第1、第2作業部会に分かれて行われます。第1部会では、地区の歴史的背景から、辻町地区がどのように成立し形成されてきたのかを明らかにするのが目的です。そして第2部会では、集落、町並みを構成する伝統的な建物にはどのようなものがあるのか、その現況を把握しその中から詳細調査を行い、建物から見た地区の歴史的特性を明らかにすることが目的です。

私たちは第2部会として活動します。調査の進め方とまとめ方、地元への協力依頼の方法について、講習会を開き疑問点などを話し合いました。また各自担当地区を決め、実際に歩いて1軒ずつの調査を始めました。現在は外観調査を終え現状の建物の形状や分布を把握しているところです。

調査をしながら歩いていると、たくさんの方が声を掛けてくれます。最初は「何しよん？」という感じですが、調査の説明をすると「それならあそこの家行ってみな。それはすごい家じゃわ」「○○さんならいろいろ昔のこと教えてくれると思うでよ。」「寒いけど頑張っとな。」中には資料を探してくれる方も。

私は、町並み調査をしながら、この町の素晴らしさはもちろん、そこに住む人たちの町を思う気持ち、そして温かさを知ることが出来ました。

これからさらに時間をかけて、奥深い辻町の歴史を調査していきたいと思っています。

とその前に、長引く風邪を治さない(^_^;)



第1回調査委員会



第2部会メンバーでの講習会(1)



第2部会メンバーでの講習会(2)

追 憶

美馬支部会員 40年

「旨い酒 呑んで騒いで 増える銚子
障害みえる MR1 撮影」
「撮影の 写る画面に 白い点
大小2つ 棘棘むシ」
「古稀迎へ 暇にまかせて 辿(タド)る日々
我人生の 裏表観る」
「手を引かれ 歩む子供の 養子先
叔父の安心 子のいじらしさ」
「家の中 前の広さの 3割を
特に気にせず 新たな生活」
「顔洗い 湧水受ける 溜り水
トイレ股ぐは 下は闇地獄」
「食事前 九九の読み上げ 繰り返し
悲しさこらえ スパルタ教え」
「時計下 反省時間 日々続く
仕付けの違い 年齢と時期」
「悪餓鬼の 以前に比べ 厳しさに
彼は時々 涙こらえて」
「突然の 主役変り 何んで又
云われるままに 弁論大会」
「クラス内 三本指に 名を連ね
泣いて帰るな 喧嘩をしても」
「進学と 就職の 割合は
4対6が 時の世の中」
「合格の 発表聞く ラジオ前
第1志望が 第2学科と」
「合格が 人生岐路か 我仕事
続け続けて 一生涯」
「入学 単位修得 巣立時
違う名前は 養子縁組」
「現場行き 敷地測量 内外と
取組仕事 建築確認」
「成人の日 違うクラスの お祝いを
シネマでデート 故郷は縁」
「病気怪我 無くて七癖 自慢して
自覚検診 入院療」
「投与する 最後の望 コバン型
体に合って 診る診る瘦せる」
「仲人の 進める見合 2度3度
女性と会話 勉強不足」



「結婚は 我生活を 変化さす
体質変る 最良薬」
「いざ行かん 小製図板 T定規
持って乗り込み 広島県へ」
「初設計(シゴト) 公衆便所 CB造り
新山大師の 観光施設」
「自営業 所員経費 四苦八苦
借りて借りぬく 重る負債」
「委託業 請る設計 数あれど
2~3% 消費税以下」
「我仕事 請ける範囲は 民2割
公共8 特異現象」
「不景気は 2度や3度の 時期もあり
耐える年月 異業種か」
「入会し 交互に絡む 助け合い
役員会は 建築士会」
「勧誘に 士会事業を 説明し
ソフト旅行 当時(トキ)の目的」
「設計と 士会活動 受けた役
貫き通す 輝く若さ」
「主事殿(事務局は) 指導士会の 相談が
士会会員 遣る気を鼓舞す」
「5日間 鉦音響く 会場は
互いに築く 2日住宅展」
「役目柄 事状によって 話し合い
我目的が 独壇場」
「白馬に 乗って受け継ぐ 会長
仕事以外も 真面目貫徹」

「捨てる」から始める快適生活！

阿南那賀支部 藤高 亜紀

とても興味深い今回の女性部勉強会。しかし耳のイタイ話ばかり…

アトリエ Coo の杉本真理子さんを講師にむかえ、モノを捨てるコツ（断捨離）について話していただきました。

まずモノを捨てられない人は大きく3分類にわかれるらしい。

- ・ 過去逃避型→散らかっていても見てみぬフリをする。
- ・ 過去執着型→思い出のモノ、頂きもの等、過去に執着して捨てられない。
- ・ 未来不安定型→もしかしたら将来使うかもと思って何でも置いておく。

うわあああ、全部あてはまってる！！恐ろしいwww特に未来不安定型。包装紙やキレイな箱、紙袋など山ほどある。使うことも殆どないのに。若い時に着ていた洋服たち。いつかまた着るだろうと大切にとってある。二度と入らないのに…それだけで物入のスペースを殆ど占領している。つくづく自分は貧乏性だなと思った。

「主役はモノではなく人」まだまだ使えるとか、高いから捨てるにはおしいとか、モノが主役になってしまうのではなく自分自身が今必要かどうか、時間軸は常に今であるということをおいてモノとの付き合い方を見直しては？ということだがナルホド納得！そうするとスムーズに仕分けできるような感じがする。あとは手放す勇気だけ！なんか話聞いただけで片付けられたような気がしてきたぞ！

いやいやまだまだ、次はキッチン周りのモノ。見てみぬふりをして何気なく過ごしている。普段使いに使って

いる食器、欠けていたり百均で買ったもの、何年も使っていたり使いにくいカタチなのに無理やり使ってるもの。新しい食器はいっぱいあるのに、何故か入れ替えしない。鍋とかもそうだ。新しいのがあるのに古いのをしつこく使っている。日ごろ使うモノは限られている。思いきって新しいのに替えて余分なモノはリサイクルや処分してしまえばという事だ。ほんまじゃ。

捨てるコツを学んだほか暮らし方の工夫の話も勉強になった。自分の生活スタイルに合わせて間取りと収納をうまく配置すれば快適な生活ができる。例えばクローゼットを寝室に設けるのではなくランドリー室、洗面脱衣室横に配置し洗濯、収納の動線をスムーズにするとか、物干し場とクローゼットを一緒にしハンガーで干した衣類をそのまま着て、たたむ手間を省くなど実際杉本さんが設計された施主さんの暮らし方から出たアイデアらしく面白いなと思った。それぞれの生活スタイルに合ったプランなら時間短縮、快適生活が送れるだろうな。

まあ今回の話を聞いたすぐは捨てる気マンマンだったが正直今まだ出来てない。知り合いになんでも捨てて大切なものまで捨ててしまう子がいるのだが、足して2で割りたい。

最後に杉本さん、きらめく女性大賞受賞おめでとうございます!!



真理子さんとこぼん

「きらめく女性大賞グランプリに杉本真理子氏！」

女性部会員の杉本真理子氏(アトリエ・クー)が、第2回「きらめく女性大賞」グランプリを受賞されました。

大変喜ばしいことで、皆様とご一緒にお祝いを申したいと思えます。

建築を志す未来の女性建築士の目標に、また、同じ道を歩む私達の大きな励みになり、これからの徳島建築の発展に大きな”光”をもたらせて下さいました。

本当におめでとうございます。心よりお喜びを申し上げます、これから益々のご活躍をお祈り申し上げます。

女性部長 佐々木 才子

●士会だよりー本部●

杉本真理子さん（アトリエ・クー）が「きらめく女性大賞」を受賞

さまざまな分野で活躍中の女性を取り上げ顕彰する「きらめく女性大賞」に、本会の会員である、アトリエ・クー代表の杉本真理子さんが選ばれました。

杉本さんは、佐那河内中学校で生徒に住宅設計や模型作りを教え、ものづくりや設計の楽しさを伝える活動が評価されました。

この賞は女性経営者でつくる「AWA おんなあきんど塾」などが主催するもので、今回で2回目となります。

●士会だより●

堀部安嗣 講演会「風景と時間とともに」

日 時：平成24年3月24日(土) 14：00～16：30

場 所：阿波海南文化村 海部郡海陽町

主 催：かいふ木の家・徳島県林業飛躍基金地域協議会南部地域部会

共 催：徳島県建築士会

●士会だより●

四国建築ツアーⅡ（高知）のご案内

昨年秋に予定していたツアーですが、四国を直撃する台風に見舞われ、このたびのはこびになりました。黒潮香る高知へ、参加お待ちしております。

日 時：平成24年3月24日(土)、25日(日)

参加費：15,000円程度

主な視察見学予定

堀部安嗣 講演会「風景と時間とともに」へ参加

高知県立中芸高校格技場見学

設計：山本長水建築設計事務所

高知駅 駅舎「くじらドーム」見学

設計：内藤廣建築設計事務所

薬工倉庫（グラフィティ）

稱名寺（しょうみょうじ） 本堂 見学

かたつむり山荘 見学

※室戸廻りで高知へ入り、馬路温泉で宿泊の予定、翌日高知市内で視察見学して帰路につく予定です。

※参加希望の方は、平成24年3月10日までに本部（653-7570）まで

●行政だよりー徳島県●

業務報告書の提出はお早めに！

建築士法第23条の6により、建築士事務所の開設者に対し、毎事業年度終了後3ヶ月以内に、設計等の業務に関する報告書（業務報告書）の提出が義務づけられています。

特に、個人の事務所開設者の方は3月31日が提出期限になりますので、早めの提出をお願いします。法人の事務所開設者の方は決算月から3ヶ月以内になります。

提出は持参又は郵送でお願いします。

また、建築士事務所登録の更新手続きの機会に、業務報告書の提出の有無の確認と指導をしております。

なお、都道府県の指導等にも関わらず未提出の場合には監督処分の対象となる場合があります。

提出・問合せ先：徳島県県土整備部建築開発指導課宅地建・開発審査担当

郵便番号：770-8570

住 所：徳島市万代町1-1

電話番号：088-621-2604

編集後記

- ・久しぶりに編集委員がいっぱい集まったー。 (ぺぺい)
- ・ようやく春の気配が感じられるようになりました。それでも毎朝布団から出るのが億劫で、これでは、退職でもしたら冬場は冬眠生活になるのではないかと不安です。 (ノーリツ号)
- ・久しぶりに、まちかど編集に参上しました。懐かしい！ (今吉)
- ・なんで来たん？ (水原太郎)
- ・どして来たん？ (ひとはたうさぎ)
- ・来月も来るん？ (酎西)



建築士会本部行事案内 平成24年

3月		4月	
1日	一日会 (士会会議室)	2日	一日会 (士会会議室)
14日	建築相談 (〃)	2～16日	二級・木造建築士試験申込み用紙配布 (士会会議室)
16日	建築士試験説明会 (東京)	9～16日	二級・木造建築士試験受付 (〃)
17日	女性部会 (士会会議室)	11日	建築相談 (〃)
21日	建築相談 (〃)	18日	建築相談 (〃)
24日	堀部安嗣 講演会 (阿波海南文化村)	23日～5月14日	一級建築士試験申込み用紙配布 (〃)
24・25日	四国建築ツアーⅡ (高知)	26日	総務委員会 (〃)
30日	常任理事会 (士会会議室)		